

飯舘村スタディツアー 感想

国際交流学科3年 MK

1. はじめに

6月11日・12日、ゼミの課外活動として福島県飯舘村に行った。飯舘村について知ったきっかけは、昨年、飯舘村に行った高雄ゼミの先輩方の報告会でハチマル・ハチマルに行ったときである。菅野さんの育てたお野菜を食べながら、飯舘村の現状を聞いた。正直、そこで初めて「飯舘村」という村を知ったため、最初は何もわからずに聞いてしまっていた。しかしそこで福島の現状というものを初めて聞き、メディアで放射線量が高くて危険だと言われていることは事実ではないということを知り、驚いたのを今でも覚えている。今年から高雄ゼミに入り、飯舘村について映像を見たり、高雄先生からの話を聞いたりすると飯舘村について学ぶ機会が増え、今月実際に飯舘村に行くことが出来た。

2. 飯舘村

3月11日に東北地方太平洋沖地震発生し、国が避難指示範囲を原発から10km、20km、30km圏内とどんどん拡大させた。その間、安全だと言われていた飯舘村には、村外から多くの人が避難し、避難所を設置し受け入れていた。しかし飯舘村の放射線量の数値も急上昇、国が原発から20km圏外でも、年間積算放射線量が20ミリシーベルトを超える区域を新たに「計画的避難区域に設定する」と発表し、事故から1か月以上も経ってから国が飯舘村全体を「計画的避難区域に指定」と発表した。

3. 行ってみて

福島駅に着くと思っていたよりも普通の町並みで、車も多く通っていたので大丈夫なのだなと思っていた。しかし、山を越え、飯舘村に入ってみると、啞然とした。美しい村とも呼ばれていた飯舘村の草は、ぼうぼうと生え、除染作業を行いに来ている車の数々を目にした。さらに街を埋め尽くしていた除染後の廃棄物、「フレコンバッグ」の量は思っていた以上で、畑や道路の脇など様々なところに放置されたままだった。除染したはいいが、除染後のものをどこへ移すのかがまだ十分に行われていなく、町中が置き場と化してしまっているのが、とても悲しかった。その後、菅野さんの自宅へ行き、田尾さん、菅野さん、溝口先生のお話を聞き、そこで一番驚いたのが、飯舘村で受ける放射線量よりもNYまで飛行機で行ったほうが放射線を浴びているということだ。溝口先生のお話は、今までの放射線の知識がない私にもわかりやすい説明で、菅野さんのお話も飯舘村の活動にとっても積極的で強い心を見習わなければと感じた。さらに車で実際に菅野さんの説明とともに飯舘村の様々な場所へ行き、飯舘村の現状を知ることが出来た。今回の飯舘村で衝撃的だったのは、今でも帰宅困難区域である長泥地区に行ったときである。バリケードで道が塞がれ、監視カメラもあり、さらに警備もいるということから長泥地区以外で見たよりも相当な場所であることを思い知らされた。そこでたくさんのお話を聞かせてくれた菅野さんの言葉もひとつひとつに思いがこもっていて、飯舘村全体が明るくなればと感じた。一方で、小宮地区の広い場所でお花を育てている大久保さんは菅野さんとは違う形で飯舘村を活気づけようとしていて、私たちが幸せな時間を味わうことが出来た。

4. おわりに

実際に今回、飯舘村に行ってみて思ったのは、行ってみないとわからないことが多いと実感した。もし今回飯舘村に行けていなかったら、私はメディアの情報を信じ、「福島は危険」だけで終わってしまっていただろう。行ったことのある私たちだからこそ出来る、今の飯舘村を身近で話題として、もっと福島をたくさんの人に知ってもらい、訪問するという行動に動かせたら一番良いことだと感じた。しかし村人へアンケートをとり、飯舘村に戻ってくると答えた

のが3割であったというのを聞いて悲しかったが、それが現状だと感じた。戻ってきても今の状態で生活出来るのか、帰る人も不安で、帰らない人も不安である。その不安がなくなるように、メディアの役割をもっと果たすべきだと思うし、遠くの私たちにもっと何が出来るかを考える必要があると今回の訪問で思ったし、もっと飯舘村について知りたいと思えるような経験であった。さらに今回は時期が過ぎてしまっていたので見られなかったが、桜が一面に広がった景色を見に行きたい、また自分たちの桜の木を植えたい、東京大学のかたたちと作るバラ園を見たいと思ったので、また飯舘村に行って自分で飯舘村の現状を知りたいと思う。